


令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立西城陽高等学校 】

1 実践テーマ	【 III・V 】
2 実施対象者	京都府立西城陽高等学校 スポーツ総合専攻コース 1・2・3年生 119名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 ( 専攻スポーツ )
4 目標 (ねらい)	トップアスリートの講演を通じて、オリンピック・パラリンピック・国際大会への関心や競技力の向上を図り、今後のスポーツ文化の広がり貢献する人材の育成を目指す。
5 取組内容	<p>(1) 選手について</p> <p>① 事前学習 11月19日(金)～12月2日(木)</p> <p>ア 調べ学習</p> <p>(ア) 器械体操について</p> <p>(イ) 寺本明日香選手について</p>  <p>事前学習として、スポーツ総合専攻コースの生徒に、「寺本明日香選手」をテーマに調べ学習を行った。</p> <p>現役のオリンピック選手であり、日本代表のキャプテンも務めている選手だが、寺本選手について知らなかった生徒も多数いた。調べることによって関心を持つようになった。</p>

## (2) トップ選手による講演会

日時 令和3年12月3日(金)  
13:25~15:15

講師 寺本 明日香 選手  
(ミキハウス 所属)



### 【講師の主な競技実績】

- オリンピック日本代表 : 2大会出場  
2012年 ロンドン  
個人総合11位 団体8位入賞  
2016年 リオデジャネイロ  
個人総合8位入賞 団体4位入賞
- 世界選手権日本代表 : 5大会出場  
2011年 東京  
2013年 アントワープ  
2015年 グラスゴー  
2017年 モントリオール  
2018年 ドーハ
- 全日本体操競技個人総合選手権 優勝3回
- 2018年 オランダ国際  
個人総合優勝 団体優勝

### 内容

- 対談

ファシリテーターとして、至学館大学健康科学部助教の久保賢志氏に來校いただき、寺本明日香選手と対談形式で進めていただいた。

- 質疑応答

### ① 講演 13:25~14:25

対談形式で行った。器械体操を始めたきっかけ、オリンピック出場時の話、キャプテンとしての経験、今後の目標などを高校生に熱く語っていただき、貴重な時間となった。



② 質疑応答 14:35~15:10

③

生徒の質問に対して、一つ一つ丁寧に対応されるだけでなく、生徒のモチベーションが上がるようにと、更に内容を掘り下げて答えていただいた。



(3) 事後学習

感想・考察レポート提出 12月7日(火)



6 主な成果

(1) オリンピック選手への憧れ

本校は器械体操部が設置されていないため、器械体操に触れる機会は少なく、スポーツ総合専攻の生徒といえども、寺本選手のことについて知らない生徒が大半を占めていた。そのため、寺本選手が来校されることを生徒に伝え、事前学習として調べ学習を行わせた。それにより、生徒達は現役オリンピック選手であり、キャプテンも務められたと知っていくことによって、とても興味を抱くことができたと考えられる。

講演会当日、生徒たちは寺本選手に出会い、どのような話をしてもらえるのか興味津々であった。寺本選手が会場に姿を現すと、小柄な選手でありながらも、放たれるトップ選手としてのオーラに圧倒された様子であった。至学館大学健康科学部より、久保助教にファシリテーターとしてお越しいただき、対談形式で進行していただいた。聴いていく中で、寺本選手の人柄や皆に語りかけるような優しい口調に、緊張がほぐれ、話を熱心に聴く姿が見られた。器械体操を始めたきっかけから話は始まり、オリンピック初出場時の話、キャプテンとしてチームを牽引したりリオデジャネイロオリンピック時の話など、器械体操の説明やチームメイトとの仲の良さなどの話を盛り込みながら展開される内容に時間があっという間に過ぎていくようであった。また、東京オリンピックが開催される予定であった2020年にアキシ


又腱を断裂し、絶望の中にも諦めずにオリンピックを目指した話を語られ、生徒たちは強い心を持った寺本選手に対して憧れを持つようになっていった。また、講演の様子が新聞にも掲載され、有意義な時間を自分たちは過ごせているのだと再確認している様子であった。今回のオリンピック・パラリンピック教育推進事業を通して、自分たちも将来、寺本選手のように出で立ちも美しく、強く優しい心を持った選手になりたいと思い、強い憧れを持つようになったと感じ取れる。高校生にとって日々、高い目標を継続してモチベーションを高く保つのは難しいが、今回の出会いによって、自分たちが目指すべき選手像や目標を明確にすることができたと考えられる。

## (2) 生徒の意識の変化

寺本選手の話の中に、生徒にとって印象に残る言葉が多くあり、その言葉を聴いて生徒の意識が変化していくのが感じ取れた。特に生徒たちが印象に残った話に共通していたのは、「努力は必ずしも報われないかもしれないが、その時間は人生の財産になる。」「ありがたいの対義語は当たり前。周りのすべての事に感謝し、何でも当たり前と思ってはだめ。」「夢を叶えるために変えなければならない3つのもの。それは行動・考え方・環境」「大会の大小に関わらずどんな大会でも同じ質・スタンスで臨み、経験を積み重ねていくこと。」等の言葉であった。特に、「夢を叶えるためには何をしなければならないかを考え、それを今すぐ実践すること」という内容は昨年の講演いただいた山西利和選手、一昨年の阪神タイガースの岩田稔選手の講演会でも話されていたことであったので、生徒にとって特に印象的であったと考えられる。それに加え「夢を叶えるためには、何か我慢しなければならないことがある。限られた時間の中で自分のやりたいことばかりを自由に行っているのは夢を叶えられない」という内容は本校の建学の精神である「忍耐と努力を自らに課す」と同内容であり、日々本校で大切にしている考え方の理解につながったと考えられる。

また、参加したのはスポーツ総合専攻の生徒であったため、質疑応答では、キャプテンとしての考え方やけがをした時の心の持ち方などの質問が出された。それに対しても寺本選手は「キャプテンだからといって、他の人のことをしようと思わなくてよい。自分がやるべき事をしていたら、その姿を見てついてきてくれる。だから背中から引っ張ってみてはどうか。仲間と仲良くなることはチームの雰囲気も必然とよくなる。そんな状況で臨んだリオオリンピックでは団体で最高順位となる4位になれた。」「アキレス腱を断裂して、直後はもう終わった、引退すると思っていた。しかし、このまま諦めてやめた自分を想像してごらん。もしだめでも頑張った時間は人生の財産になるよ。と言われ、考え方が変わり、もう一度体操に向き合ってやろうという気持ちになれた。これもけがの功名かもしれない。だから、皆も諦めずにやるのが大切だよ。」と回答され、生徒たちは心の悩みをほぐしてもらっただけでなく、新たに進むべき道筋を示していただいたようであった。

今回の講演会を通して、寺本選手のけがにも負けない強い考え方、そしてそれに対してひたむきに取り組む姿に格好いいという内容や、日頃から先生方から言われている事も多くあり、今後の取り組み方への意識が変わったという感想が多く見られた。質問を通して直接対話もでき、生徒たちとの距離感が一気に近付いたと感じる。世界で活躍する選手の競技に対する向き合い方や生き方について感銘を受けた

	<p>だけでなく、自分たちも寺本選手のようになりたいという憧れや強い意識をもって頑張らねばならないという考えを再確認させられ、意識が講演前と比べて高まったと考えられる。</p> <p>(3) 世界規模の大会への出場への意欲  2021年、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、日本人選手が数多く躍動した。寺本選手との出会いによって、生徒たちがオリンピックや国際大会に対して興味を持ち、寺本選手の今後の活躍を応援したいと身近に感じてくれたことは今回実施した意義や成果はあったと考える。昨年度はI.H.や国体などの数多くの大会が中止となり、今年度も国体が中止になるなどコロナ禍で大会への出場が制限され、悔しい思いをした選手も少なくない。そんな状況の中、トップ選手に出会うことによって、自分たちもオリンピックや国際大会へ出</p>  <p>場したいと思うモチベーションの高い生徒が数多く出てきてくれることを期待したい。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 講師選びと時期選びの工夫  本校はスポーツ総合専攻コースがあり、チャンピオンスポーツを目指すべく生徒たちは入学し、日々切磋琢磨している。環境も整えていただき恵まれている。ただ、恵まれた環境が故、ハングリー精神や恵まれた環境のありがたさを感じる気持ちが少し薄らいでいるように感じていた。そのため、人柄も良く、常に向上心を持って練習されている寺本選手に講演を依頼した。またアキレス腱断裂の大けがをしたのにも関わらず、前向きに取り組む姿や考え方学ぶべきところである。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) トップアスリートとの調整  どの学校でも共通することではあるが、学校の状況に合わせた講師選びと立案・準備・アスリートとの日程調整が難しい。</p> <p>(2) 学校行事などの活用  本校はスポーツ総合専攻の生徒対象の2時間連続の授業内で実施した。内容は大変有意義なものであるので、一部の生徒対象にせず、全校生徒対象で行えると良いのではないかと考える。ただ、コロナ禍で一堂に会するのが難しい点や他の学校行事の調整が難しくできない状況となっている。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) トップアスリートとの交流  トップアスリートと交流することは、生徒のモチベーションアップについて非常に有効的であり継続して実施したい。しかし、次年度この事業がなくなり、予算が付かない場合は難しいと考える。</p>